
ラーメンに朝青龍がトッピングされていた

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラーメンに朝青龍がトッピングされていた

【ZPDF】

Z2326F

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

有り得ない。ラーメンに朝青龍がトッピングされてるじゃないか。

俺は椅子から転げ落ちた。なんでつてそりや、「ラーメンの器のついに、朝青龍が乗つかつていたからだ。

器の中身を覆い隠してるとか、そういう問題じやない。いつ器が割れるかもわからない。というか、不貞腐れた顔でこっち見てる。

怖い。

啞然としていると、朝青龍がよつこりしょと転がつて、器から降りた。

当然器は横たわり、中身が見事に流れ出す。あーあ、勿体無い。と、店主がカウンターから出てきた。

「イツか、朝青龍なんて奇抜さを通り越して犯罪的なものをトッピングしたのは。

「ああ、お密さん困るよー」

そんなこと言われても、お前がやつたんだろう。俺は当然店主にクレームをつけた。言いたいことは山ほどある。すると、店主は口をキヨツと閉めたかと思つた。

「そんなわけないでしょ」

「は？」

「そんなわけないでしょお！」

いきなりそんな剣幕で怒鳴られてしまつたら、俺も流石に言い返せない。

果然と立ち尽くす俺に、朝青龍は追い討ちをかけるが如く、睨みつけてきた。

「殺すぞこの野郎！」

と怒鳴つてきたので、俺はただ土下座するしかなくなつていた。ふいに、朝青龍が店を出た。どこに行くのかと聞いたら法廷にいくらしい。終わつたらモンゴルでサッカーをするんだそうだ。

そんな彼を見送ると、店主は仕方ないと文句をたれながら、ラーメンが新しく作られていた。

新しいラーメンには、大麻がトッピングされていた。

(後書き)

十分で短編を書き上げよつシリーーズ開始。そ、仕事いきます。ああ、
遅刻する！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2326f/>

ラーメンに朝青龍がトッピングされていた

2010年10月12日16時05分発行